

2018年6月実績概要(メモ)

(2018. 7. 19)

定修実施時期の集中に伴いエチレン並びに誘導品の多くが大幅な減産。

1. 生産動向

イ) エチレン 412,700トン

前月比 ▲17.3% (▲86,400トン)
 前年同月比 ▲14.3% (▲68,700トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	▲3.2%	—
定修要因等	▲14.5%	▲16.8%
能力増減	—	—
稼働率変動	+0.4%	+2.5%
生産増減率	▲17.3%	▲14.3%

稼働プラントの実質稼働率試算：前月97.2%→当月97.6%←前年同月95.5%
 定修プラント：前月2社2プラント→当月3社3プラント←前年同月2社2プラント

ロ) 主な石油化学製品

前月比では、日数減と定修規模の拡大からLD、HD、PP、塩ビ樹脂、EO、EG、ベンゼン、トルエン、キシレンなどの14品目がマイナス。PSなどの3品目は主に定修規模差や稼働率要因からプラスとなった。

前年比では、定修規模の拡大からLD、PP、塩ビ樹脂、EO、EG、ベンゼン、キシレンなどの9品目がマイナス。HD、PS、SM、AN、トルエンなどの8品目はプラスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況(LD、HD、PP、PS)

イ) 生産

前月比では、日数の減少に加えてLD、HD、PPでは定修規模の拡大や稼働率要因からそれぞれが大幅なマイナスとなった。PSは定修規模の差からプラスとなった。

前年比では、定修規模や稼働率要因からLD、PPは大幅なマイナス。HD、PSは主に定修規模の差からプラスとなった。

ロ) 国内出荷

前月比では、連休のあった前月に対して当月はユーザー側での稼働日数の増加もあり、各出荷分野とも総じて出荷が増加しLD、HD、PP、PSの4樹脂が揃ってのプラスとなった。

前年比では、LD、PPは生産の減少に伴い在庫の大幅な取り崩しによる出荷がなされたものの前年を下回る事となった。HDは前月並み、PSはプラスとなった。

ハ) 輸出

国内向けを中心とした出荷対応からLD、HDの輸出は低調となっている。前月比では、前月に一時的に増加したLDが当月はマイナス、HD、PPはプラスとなった。

前年比では、LD、HDは大幅なマイナス、PSはプラスとなった。

ニ) 在庫

在庫量は、LD、PPの大幅な減少をはじめ4樹脂で減少した。在庫率(季節調整済)は前月に対してLD、HDで低下、PP、PSは前月並みとなった。在庫水準としては、在庫を大きく取り崩したこともありLD、HD、PPはほぼ適正レベル、PSはやや高め傾向が続いている。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率(単位:ヶ月)	
		5月末	6月末
LD	▲51,400	3.5	3.2
HD	▲18,100	3.0	2.9
PP	▲66,200	3.0	3.0
PS	▲2,500	1.6	1.6

以上